地域福祉活動情報紙　No.3

なばりんく

8・9月号

しあわせ写真

桔梗が丘西2・3・4・5番町夏祭り

※関連記事2頁に掲載

まちびと探し

今月の
まちびとさん

田鍋（たなべ）　鐵弥（てつや）さん（73）　特定非営利活動法人 こどもの安全を守る会コアラ 代表

平成12年よりボランティア活動を始めた田鍋さん。つつじが丘・春日丘地域におけるまちづくり委員会の立ち上げ等に伴い、子どもの安全を守る活動も必要と、当時は4人で活動を開始した。平成13年に「こどもの安全を守る会コアラ」と命名し、活動を始めた矢先、世間を震撼させた悲惨な「池田小学校」殺傷事件が起こった。子どもの安全をどのように守る事が出来るのか、どのように活動すればいいのか、今自分たちに出来ることは何かと大きな課題にぶつかり、メンバーと共に模索する中、身近にいる子どもたちの安全を守るため、今自分たちに出来ることとして、登・下校時に交差点指導や声かけ、通学路のパトロールなどを行う犯罪抑止の活動に取り組むようになった。

池田小学校の事件から10年、世間の記憶も風化しつつあるが、田鍋さんの心の中にはいまだ鮮明に残っており、「犯罪は待ってくれない。何か起こってからではダメ！」と、この事件の記事を目にするたびに思いを新たにして活動に励んでいるという。

「パトロールの中では子どもとの対話がとても大切。子どもたちから信頼されるように出来るだけコミュニケーションをとっています。子どもたちといろんな話をします。昆虫に詳しい子がいたり、鳥や車などの事を詳しく教えてくれる子なども。時にはしりとりなどもして楽しく活動していますよ。」と田鍋さん。これからも子どもたちのために活動を続けていきたい！と力強く語ってくれた。

※コアラの活動記事を2ページに掲載しています。

地域ピックアップ！

特定非営利活動法人
こどもの安全を守る会コアラ

こどもの安全を守る会コアラは、つつじが丘・春日丘地域で登・下校時の子どもの安全を守るための活動と地域防犯活動を行っているNPO法人です。

毎朝登校する子どもたちを交差点に立って交通指導をし、その後一緒に学校まで歩き、運動場で元気に遊ぶ子どもたちを見ながら始業時間まで校庭を巡回。下校時も交通指導をしながら子どもたちに引率し、その後は青色回転灯装備車輌(※１)で、つつじが丘から春日丘までの住宅地内の通学路・幹線道路のパトロールを行い、犯罪の抑止力につながる活動を続けています。

子どもたちの見守り、声かけ、互いに挨拶を交わしながらの日々の活動を通し、犯罪のない安心な街づくりを目指しています。

代表の田鍋さんは、活動を通し、大人の交通マナーの悪さが気になるといいます。子どもの安全を守るためには、私たち大人一人ひとりも日頃の交通マナーを見直し、自分たちの責任を果たすことが必要です。

平成13年より始めたコアラの活動も今年で10周年になります。さまざまな課題を抱えながらも、地域の方々の温かいご支援、そして「ありがとう」の言葉を励みに雨の日も雪の日も猛暑の日もボランティアの方々は子どもたちの笑顔のため頑張って日々活動を続けています。

コアラでは一緒に活動してくれるボランティアを随時募集しています。
『気軽に散歩するような気持ちでこんなボランティア活動をしてみませんか？健やかに地域の子ども達を育てていきましょう。興味のある方はぜひご連絡ください。』
連絡先：代表 田鍋鐵弥（たなべ てつや）（６８－０２８４）

（※１）青色回転灯装備車輌とは・・・
警察署に申請し許可をもらって、自動車に青色回転灯を装備し自主防犯パトロールを行う車輌をいいます。名張市内では現在５つの地域（つつじが丘、梅が丘、百合が丘、すずらん台、桔梗が丘）で自主防犯パトロールが行われています。

桔梗が丘地域『微笑み（ほほえ）サロン』のご紹介！

桔梗が丘西２・３番町の高齢者の皆さんが交流を深められるように、と平成23年5月21日（土）第1回の活動を始めた『微笑みサロン』。3ヵ月に1回を予定にしながら、この夏は、7月16日（土）開催の西２・３・４・５番町夏祭りで綿菓子の出店を決め、その準備を兼ねて7月14日（木）にも臨時でサロンを開催しました。（写真）

微笑みサロンには高齢者１０数名が集まり、民生委員を中心にスタッフ６～７名と茶話会や歌を歌う交流をしています。14日には綿菓子の練習をし、参加者も自分で作った懐かしい味に大いに盛り上がりました！また、夏祭りでは長蛇の列にスタッフもおおわらわになりながら、楽しみに待つ子ども達みんなに行き渡るよう、終了時間も延長してもらい、休む間もなく一生懸命綿菓子を作りました。子ども達へも声をかけたりするなど、サロンとして地域に貢献され、「来年度もぜひお願いしたい」との話もあったそうです。

名張市災害ボランティア支援センター（名張市社協）主催

『なばり発！ボランティアパック』報告

平成２３年７月１１日（月）～７月１５日（金）、現地での復興支援のお手伝いをしたいと、名張市内外から２６～６７歳の男女１７名のボランティアが集まり、バスで岩手県大槌町へ向かい、３日間の復興支援ボランティア活動を行ってきました。

３日間と限られた時間ではありましたが、大槌町災害ボランティアセンターの指示により、現地の復興に少しでも役立てればと参加者全員が一つのチームとして団結し、現地の相撲場で泥をかぶった写真の清掃・整理を行っている『パレスチナ子どものキャンペーン』（NPO）のお手伝いや、個人宅での『泥出し』『砂利洗浄』『写真洗浄』などを行いました。

炎天下の中での活動でしたが、現地の方の温かい振る舞いや気遣い、交流を通じ、人と人とのつながりの大切さや助け合いの必要性を改めて認識する機会となりました。

≪泥出し≫

≪砂利洗浄≫

≪写真洗浄≫

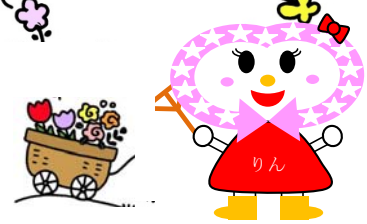
≪現地の方との交流≫

≪現地の子どもとの交流≫

≪活動を終えて≫

参加者の声

『なばり発！ボランティアパックに参加して・・・』



雪の降る、春直前の地震とその後の津波の被災地は、真夏を迎えても4ヶ月の時間の経過が見られない復旧の遅れ。一人の力は微力でもそれを積み重ねる必要を感じた岩手・大槌への応援。被災地は人の手を求めています。

米山　芳久

峠を越えて、眼下に見えた爪痕。私は唖然とするばかりでした。そのような中で、作業を行い、地元の人々の明るさ、元気、笑顔がとても美しく感じ、私達が届けなければいけないのに頂いた感じでした。　石崎　守

私達が洗浄した写真が持ち主の目に触れ感激してくれたら嬉しい。泥中から掘出してくれた人、洗浄し復元してくれた人、貼り出してくれた多くの人が関わったことに感謝してくれたら本当に嬉しい。

吉岡　誠

ボラバスに参加されました皆様は、現地では3日間でしたが、一致団結して活動に取り組まれました。今回の経験を将来予想される東南海地震に備えて、地域の中で災害ボランティアとしてキーマンになる様に期待申し上げます。　堀井　理

世代を越えた仲間と協調しての活動、こんな経験は貴重。依頼先からの感謝、作業完了時に達成感、これら被災者と我々間との笑顔、この交流は何とも言えない、心の充実感が満ち溢れるひと時であった。

幸田　洋

この大災害を前に自分は一体何ができるだろうかという思いがありました。実際に現地に入ってボランティア活動を行った後、被災者のご家族に「ありがとう」と笑顔で答えて頂けた事で自分がお役に立てたと感じております。　カズヒロ

少々、消化不良の活動でした。諸先輩方の経験談が貴重なお土産になりました。良い仲間の方々を人生の宝にしたいと思います。　柏　元三

津波の被害は思った以上に深刻でしたが、その一方で広大な更地に仮設の不動産屋や医院、コンビニ等が営業を始めており、復興の兆しも見えました。今後は、行政が早急に再建のプランを示すことが重要だと思います。

匿名希望

３日間の活動を通じてまだまだボランティアが必要だと感じた。一人よりグループでの参加が現地に於いては有効であり受入れ易いと思われるので今後も機会があればこの様なパックでボランティアに参加し現地の復興に役立てたらと思います。

柴田　則幸

今回の7／11～15のなばり発！ボラパックに参加して、一緒になりましたメンバーの方に親切にしていただきましてありがとうございました。こういう風なボラパックが活動内容を被災者のニーズに対応して、続けていくことが必要だと強く思いました。

浅井　伸一

今回の大震災は、来るであろう東南海地震を改めて思い起させるものでした。この困難とも言える災害のボランティアに参加させていただいて、将来どうすべきかの指針がかすかに見えました。良い経験でした。感謝。　トミー

木切れ、ガラス片等どれだけ拾っても拾いきれなかったが、次につながる事を信じて作業しました。通りかかった大槌町の方に「できることはほんの少し」と話すと「そんなことはない！感謝しているよ。」という返答でした。やっぱりうれしいですね。　ワタナベ

浜松市民という立場で名張市主催のボランティア活動に参加出来たことに大変感謝しています。とても温かいボランティアチームだったと思います。そしてその温かさが現地の方々に伝わっていたと思います。

辻村　多文

同じ場所に立ち、同じ作業をしても、持つ感想や出る言動は、参加者皆、様々だと思いました。毎日のミーティングでそれを感じましたが、他のボランティアパックの経験のある方の色々なお話も伺え、大変良い経験となりました。

匿名希望

『語ろうOh！つち』開催報告

ボランティアパックに参加したメンバー7名が7月23日（土）に総合福祉センターふれあいに集まり、大槌町でのボランティア活動を振り返り語り合いました。「もう少し活動したかった」「現地の方の交流を通じて元気をもらった」「活動を通じて『絆』が育まれた」等、それぞれが、活動を通じて得たものや感じた想い等を語りました。

※承諾者のみ掲載
参加者のみなさま、お疲れさまでした。
また、バスを無償で提供・ご協力いただいた（株）メイハンの皆さまありがとうございました。

ボランティアリレーTalk!

トーク　とみもり　さとし
冨森　諭さん（６９）　THE爺’S 代表（ザ・ジーズ）

ＴＨＥ爺’Ｓは、伊賀地域を中心に老人ホームや福祉施設への慰問、また地域の敬老会や、各種イベントの余興として、懐メロ・歌謡曲を中心に生の演奏を楽しんでもらっている‘お爺さんバンド’です。

メンバーは７人で、私はドラムを担当しています。私の楽器経験はありませんでした。ただ、昔からドラマーに憧れていたので、“私にもドラムを叩けるのでは”という気持ちから、定年を機に大好きな歌謡曲を演奏ジャンルとして、かねてからの夢に挑戦しました。バンドを結成して７年を迎えています。ドラミングの難しさを実感しながら、メンバーにも恵まれ好きな道を楽しんでいます。本番では、会場の皆さんの笑顔と「また来てや～」と大きな拍手をもらった時、やりがいを感じます。

今後も音楽を通じて社会に貢献できるバンドを目指し、もう少し頑張るつもりです。※ご用命はＴＥＬ６３－４７３０まで！

音楽工房便り♪

「♪知床の岬に　はまなすの咲くころ～」

毎日暑いですね。お変わりありませんか。

皆さんは、知床半島に行かれたことはありますか？知床半島は北海道の東部、ひげのように飛び出た所で、国後島を望むところに位置します。森繁久弥さんは今から51年前の1960年、47歳の時に、「地の涯にいきるもの」の映画のロケで、羅臼町を訪れました。『知床旅情』はその時の撮影終盤に町の人々にお世話になった感謝の気持ちを込めて作詞・作曲されました。

この歌には、今頃は砂浜できれいに咲いていると思われる“はまなすの花”や“ラウス・ピリカ”というアイヌ語が歌詞にもあり、ご当地ソングとしても知られています。森繁さんは俳優業の他に歌手としても知られ「NHK紅白歌合戦」にも出場され、あの有名な「森繁節」を披露されています。また、この曲は、1971年に加藤登紀子さんも歌って大ヒットとなりました。とても柔らかいメロディーで、優しい気持ちになります。森繁さんのユーモラスな気持ちも曲に出ているように思います。皆で歌って暑い夏を少しでも爽やかに過ごしませんか？ お待ちしています！

８・９月の“みんなでいっしょに唄いませんか”

◆日時：８月２５日（木）
10:30～11:30
◆日時：９月１２日（月）
10:30～11:30
◆会場：名張市総合福祉センター ふれあい
◆対象：名張市内在住の65歳以上の方
※参加費無料・申込み不要

☆地域開催
◆日時：８月２４日（水）
13:30～14:30
◆会場：薦原公民館（薦生1607）
◆日時：１０月１４日（金）
13:30～14:30
◆会場：赤目公民館（赤目町丈六238-1）
※対象、参加費等同上

介護者サロン“さくら喫茶”を開催しました。

第１回目のサロンを７月１３日（水）に名張公民館において開催しました。

２時間のサロンの間に１２名の方が参加されました。

皆さん介護に関する話題は尽きることがありませんでした。ベテランの介護経験者からパジャマの着替えさせ方などアドバイスを受けている方もいらっしゃいました。

また、介護食の試食も行いましたが、皆さん「想像していたものと違う。おいしい！！」と口を揃えておっしゃっていました。

終始なごやかな雰囲気の中で時間が流れていきました。

8月、9月、10月の“さくら喫茶”

開催日時・場所
- 8月　10日（水）蔵持公民館　13：30～15：30
- 9月　8日（木）美旗市民センター　13：30～15：30
- 10月　7日（金）比奈知公民館　13：30～15：30

上記いずれも
参加費：１００円

日頃、家族の介護をされている方、ちょっと一息つきませんか！

☆お茶、コーヒーや紅茶、お茶菓子等を用意してお待ちしています。

主催：名張市社会福祉協議会　　協力：名張市家族介護者の会「楓の会」

手づくりレシピ紹介！サロンや地域の集まりで作ってみませんか！

紫蘇（しそ）ジュースで作る『紫蘇ゼリー』

★暑ーい夏にさわやかな紫蘇ジュース、紫蘇ゼリーはいかがですか！

紫蘇ジュース　材料
- 赤しそ　300g
- 砂糖　700～1000g（お好みで）
- 水　2ℓ
- クエン酸　25g

紫蘇ゼリー　材料
- 紫蘇ジュース　300ml
- 粉寒天　小さじ6（24g）
- 水　700ml
- 砂糖　30～40g
- ホイップクリームなど（お好みで）

『紫蘇ジュースの作り方』

①. しそはきれいに洗う。
②. 水を鍋に入れ沸騰させ、沸騰したら①のしそを入れて１５～２０分弱火で煮る。
③. ②の葉を取り除き、ザルにキッチンペーパーなどを入れ、汁を裏ごしする。
④. ③の裏ごしした汁を鍋に戻し、砂糖を加え１５分ほど弱火で煮る。
⑤. あら熱をとり、クエン酸を加える。この時に色が変わる。
※クエン酸の量によって酸味が変わるので、量は調節してください。
⑥. ペットボトルなどに移し、保管してください。飲むときは３～４倍に薄めてどうぞ！★お酒で割ってもおいしいですよ！

『紫蘇ゼリーの作り方』

①. 粉寒天と砂糖をよく混ぜる。
②. 鍋に分量の水を入れて①を２、３回に分けて入れよく混ぜ、中火にかける。
③. ②が沸騰してきたら火を小さくし、１～２分混ぜながらそのままにしておく。
④. ひと肌に冷ました紫蘇ジュースを③に入れよく混ぜる。
⑤. 型に流し入れ、あら熱が取れたら冷蔵庫に入れて冷やし固めて完成！

レシピ提供・協力：名張市精神障害者家族会なばるの会（同会は、精神障害者の家族で構成する会で、会員の親睦、勉強会、啓発活動を目的として活動しています。）

名張のむかしを歩もう！　『夏が来れば思い出す』

「夏が来れば思い出す」。歌の文句ではありません。毎年夏になると小学校運動場で催される七夕祭りと、隣接する寿栄はん≪寿栄（ひさか）神社≫の夏祭りが鮮やかに甦ります。

昭和八年入学当時、私の家は運動場のすぐ前にあり、目の前で繰り広げられる催しはひとしお印象も強く残っています。（この頃の寿栄神社は、現在の名張小学校体育館の所に建っていました。）

祭り当日は竹ようかんが売られ、更に「作り物」と呼ばれる見世物の飾り付けに心踊らされたものです。二年生の夏祭りだったか、この年の作り物は、アメリカで話題となった怪物映画のキングコングでした。大きな竹籠と棕梠（しゅろ）の繊維製の蓑（みの）で胴体を、懐中電灯で眼を作り、神社の太鼓門の屋根まである大きな物でした。ピカピカに光る眼に驚いたものです。竹ようかんは、食べ易いように底に穴を空けてくれたのを忘れ、途中で逆さにしたのか家に着いたら中身が無くなっていました。これも懐かしい思い出です。

続いて八月一日の七夕さんです。この日は夏休み初日ですが全員登校して夜の祭りの準備です。各クラスに大きな竹笹が用意され、ワイワイ喋りながら短冊を結びつけるのも楽しいものでした。運動場一杯に立てられた竹笹の列と中央の柱から赤い提灯を吊るしたロープが四方に張られ夜にはローソクに灯りが入り、それは見事なものでした。夜店もたくさん出て祭りを盛り上げてくれました。屋台のガスランプから漂うカーバイトの匂いもしっかり鼻で覚えています。いよいよ明日からは休み本番、宿題そっちのけで遊びに夢中の夏でした。

※追記：寿栄神社は、名張藤堂家の初代高吉公をお祀りし、贈り名「徳蓮院殿徳翁寿栄大居士」に因んだものです。昭和九年末現在地に移転し、跡地に講堂が建築されました。※参考文献：名張小学校百年史

おきつもを語る会　　平岡　眞一

協力：おきつもを語る会（同会は、名張の昔について、見聞や体験で得た習慣、行事など座談会を通じて参加者と共に語り合い、資料にまとめ冊子にするなどして、多くの人に名張の歴史や文化を伝える活動を行っているボランティアグループです。）

発行：社会福祉法人 名張市社会福祉協議会
名張市丸之内７９番地
名張市総合福祉センターふれあい内
電話番号　６３－１１１１
ＦＡＸ番号　６４－３３４９
ホームページ　http//www.nabarishakyo.jp
Emailアドレス　info@nabarishakyo.jp
発行部数：１，１００部

≪設置場所≫
総合福祉センターふれあい、市民情報交流センター、各公民館・市民センター、こども支援センターかがやき、武道交流館いきいき、名張郵便局、錦生簡易郵便局、近大高専、名張市役所、名張市立病院、総合体育館、協力店舗（いいの、吉野豆腐、大為陶器、はなびし庵、矢の五薬局夏見店、山平たばこ店、café*mjuk、booksアルデ、サロンきずな、やなせ宿）
※設置協力店舗募集中です！

次回のなばりんくは10月1日発行予定です。